

# 上宮寺通信

第六号

## 鬼はだれ？

最近では豆まきより恵方巻の方が有名になってしまっている節分の日。この節分の行事というのはもともと宮中行事の悪霊祓いからきているといわれます。

本来、節分の日というのは二月三日だけでなく、季節の変わり目である立春、立夏、立秋、立冬の前日をいいます。季節の変わり目というのはどうしても体調を崩しやすく疫病が発生しやすくなります。昔は悪霊の仕業により疫病が発生すると思われており、その悪霊を祓うのが節分の行事であったといわれています。

いまでは節分の日といえば、

「鬼は外、福は内」の掛け声で豆をまくのが一般的です。私も子どもが小さい頃は、鬼のお面をかぶって豆をぶつけられたものでした。しかし、私の中から「鬼」は出ていくことはありません。

仏教で「鬼」という字が使われている言葉に「餓鬼」があります。これは私たち人間の迷いの姿の一つの様相で、字のごとく飢えた鬼となり、「あれが欲しい、これが欲しい」と欲望を露わにして、満足することのない姿をいいます。

私の中の「飢えた鬼」も、いったん「欲しい欲しい病」にかかると、なかなか治まってくれません。最近ではインターネットを使うとクリックひとつで商品が買えてしまいます。気をつけ

ないとこの鬼はどんどん大きくなってしまう。

そして鬼の形相(ぎょうそう)という言葉があるように、鬼は怒りの象徴としても表されます。この「怒りの鬼」も事あるごとに現れてきます。

「腹たたば 鏡を出して 顔を見よ 鬼の姿が たただで見られる」という法語がありました。腹をたたないでおうと思っても、なにか気に食わないことがあると腹をたててしまいます。そんなときは鬼の形相になっているのでしょうか。

また「福は内」という言葉にも、自分のところだけ「幸福」が来てくれれば、ひと様のところはどうでもいいという根性が見え隠れします。

「鬼は外」と言いながらも私の中の「鬼」は出ていくことはありません。「福は内」と言いながらも自分の幸せのみを祈る姿があります。

仏様の教えに照らしてみれば「鬼は外、福は内」の言葉も自分自身を見つめさせていただく言葉となるのです。



◆行事案内

上宮寺の行事

2月23日(土)

上宮寺講

時間:午後二時

3月8日(金)

春季彼岸会・永代経法要

時間:午前十時~午後一時半

法話:林 祥真師

(一宮市禮讚寺前任職)

※お斎(食事)がありません。

3月23日(土)

上宮寺講

時間:午後二時

皆さまのご参詣・ご参加をお待ち  
しています。

その他の行事

2月14日(木)

3月5日(火)

讃頌会研修会

「浄土真宗の念仏と信心」

講師:瓜生崇氏(滋賀県玄照寺)

時間:午後二時~三時半

会場:東別院会館2階「蓮の間」

会費:千円(一回)

讃頌会とは上宮寺が属する名古屋教区第30組の聞法会です。どなたでも参加できます。

参加者募集

三寺会 特別企画

山梨・親鸞聖人ご旧跡めぐり

5月14日(火)~15日(水)

親鸞聖人のご旧跡をバスにてめぐり、甲府湯村温泉で泊まる一泊二日の参拝旅行です。

参加費 34,000円

定員 三十名

詳しくは上宮寺まで。

◆話題あれこれ

○お正月の修正会には、たくさんの方にお参りいただきました。ビンゴ大会がとうございました。ビンゴ大会も大盛り上がりでした。

○早いもので来月は春のお彼岸・永代経法要が勤まります。皆様のご参詣をお待ちしています。

○インフルエンザが流行っています。体調には十分お気を付けてください。

【雑感】

横綱・稀勢の里が初場所の途中で引退をしました。久々の日本出身横綱として期待が高かっただけに非常に残念です。昇進してすぐケガをして、横綱としては短命に終わってしまいました。どつしりとした取り組みは非常に好感が持てました。そんな初場所は残る二横綱も休場し、大関陣もふがない。若手力士に期待していましたが、関脇の玉鷲が三十四歳にして初優勝。大相撲は群雄割拠、戦国時代の様相ですね。次の場所も楽しみです。

(住職記)

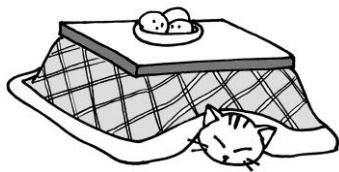
【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金一丁目十九番十五号

☎052-871-0547



【お志ありがとうございます】

河合様